

PICK UP NEWS

【フライドチキン62,000個】 【プリマハム 自主回収へ】

プリマハムはフライドチキン商品の一部にビニール片が混入した恐れがあるとして約6万2千個を自主回収すると3月1日発表した。対象商品は「スパイシースティック260g」の一部と「StyleONE骨なしフライドチキン120g」の一部。埼玉県の製造工場で異常を知らせるブザーについているひものカバーが生産ラインに落下し、混入した可能性があるとのこと。

時事通信3月1日配信



【乳酸菌飲料13万2,000本】 【カゴメ 自主回収へ】

カゴメは、乳酸菌の一部商品で、法令に定められた乳酸菌の数を満たしていない可能性があるとして、乳酸菌飲料3商品約13万2千本の自主回収を発表した。大阪府や愛知県の保健所から3月2日乳酸菌の数が基準値を満たしていないとの指摘を受けたという。カゴメは製造工程で、原料のかき混ぜが不十分だったことが原因とみているが、飲んでも健康への影響はないと説明している。

FNN3月4日配信



【サラミソーセージ1万4,000個】 【伊藤ハム 自主回収へ】

伊藤ハムは3月4日、サラミソーセージ「辛口パブステイック20g」の一部を自主回収すると発表した。愛知県豊橋市の工場で味付けする際、調味容器のふたの部品が外れ、5ミリ程度のプラスチック片が混入した可能性があるため。約1万4千個が対象。健康被害は寄せられていないという。主に全国のコンビニエンスストアで販売された。

読売新聞3月4日配信

食品がどう体にいいか示す「機能性表示食品」制度について消費者庁は3月2日、ガイドラインを公表した。国の審査がない届け出制のために業界にとって迅速な商品開発や市場投入につながる面もありそうである。また一方、制度導入後の調査等で商品の効果や安全性の科学的根拠に疑問が生じたら消費者庁の指示、命令で企業が新制度の利用を撤回することもあり得るとしている。新制度では、信頼性の高い論文などで効果を証明できることを前提に販売の60日前までに消費者庁に届け出る。今夏にもこの制度で商品が販売される見通しだが、同庁は「機能表示食品」と明示し、その上で「○○を含みおなかの調子を整える機能があることが報告されています。」等と表示する。また、1日1目安量や効果的な食べ方等も表示する。

新制度を利用する企業は、医薬品と併用した場合のリスクを確認したり健康被害情報を収集し消費者庁に報告したりすることが義務付けられる。3月2日に都内で開かれた消費者庁の一般向け説明会に参加者は約千八百人と関心が高かった。しかし同庁の担当者は「ダーマトキシンによる食中毒と、「痛みの緩和や一日酔い防止の表示は可能かなどと質問が相次ぎました。しかしながら、新制度については、必要な調査を学ぶための要件が厳しく、すぐに商品を出すのは難しい」と述べた。「新制度は表示できる範囲が先行する米国より狭く期待した程ではなかった」と困惑の声も聞こえた。

毎日新聞3月2日配信より抜粋

「機能性表示食品」消費者庁がガイドラインを公表



県央かわら版

第27号

平成27年3月15日発行

発行所

一般社団法人県央研究所

アオブダイ食べ死亡

和歌山市では3月1日市内の飲食店でトラフグの肝臓を食べた男性3人が一時意識不明や呼吸不全などの重傷に陥ったと発表した。これ以外に激しい嘔吐や手足のしびれなど男性2人も中毒症状を訴えた。発表では5人は2月27日夜、フグの肝臓を入れた鍋料理を食べ、間もなく手足のしびれなどを訴えた。5人はフグのコクス料理を食べ、肝臓は本来メニューには入っていないが客の求めに応じ店側が提供したという。

店員オノンライン3月2日配信

フメニユーにはない食中毒

宮崎県は2月18日、ブダイ科の魚を食べたとみられる県内の7代女性が死亡したと発表しました。魚の内臓などに含まれる猛毒「パリトキシン」による食中毒が原因とみられる。女性は16日夕、ブダイ科の魚の煮付けを食べて体調が悪くなり17日夜から県立病院に入院していました。魚の入手経路等は不明という。長崎県では2012年にアオブダイを食べた男性の死亡例がある。

朝日新聞2月19日配信

有毒魚の対策は「食べることを避ける」



アオブダイ(青武鯛)とパリトキシン スズキ目ベラ亜目ブダイ科

日本では東京から沖縄の岩礁或いはサンゴ礁に生息する大型魚。体色は青緑色。頭部は大きく、大型魚ではコブがある。老成魚では体長80cm、体重は12kg程度。アオブダイに含まれる有毒成分「パリトキシン様毒」は主に肝臓に分布し、筋肉部位にも存在することがある。加熱や水洗いでは毒性は失われないため「食べることを避ける」以外に対策はありません。

パリトキシンはフグ毒の70倍とも言われています。

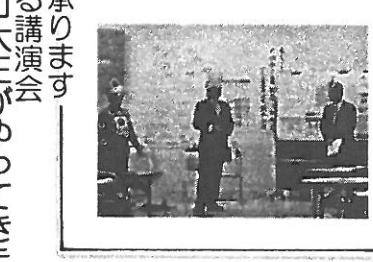


イベントレポート

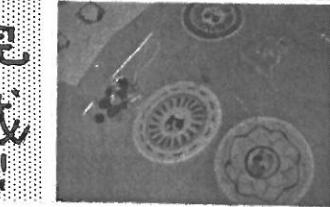
三条市環境啓発施設「かんきょう庵」とコラボ企画



大好評



完成!



プラスチックは、加熱することで再形成が比較的簡単にできることから、リサイクルしやすい素材といえます。

3月8日、三条市環境啓発施設「かんきょう庵」で小学生とその保護者を対象とした「プラカップでキーホルダーを作るイベント」が開催され、施設の職員が講師を務めました。年間一千万トンも、ゴミとなるプラスチック。今回このプラスチックを使って自分でオリジナルキーホルダー作りにチャレンジ。参加者は楽しみながら型抜きやシールを使って世界に一つだけのキーホルダーを作りました。

プラカップでキーホルダーを作ろう!!

皆様からの情報ご意見をお待ちしております。信してあります。取り上げていただきたいものや、お気軽にお問い合わせ・ご用命はお問合せ・ご用命は株式会社県央研究所へ

絶賛取り扱い中
嘔吐物処理に必要なものをセットした
キヤップがコップになる。しっかりと殺菌・消毒
おも取れる携帯うがい薬
お問合せ・ご用命は

好評です。
観て・聞いて・体験する講演会
ノロ劇場「野呂家にノロ大王がやつてきた」

好評です。
観て・聞いて・体験する講演会
ノロ劇場「野呂家にノロ大王がやつてきた」

皆様からの情報ご意見をお待ちしております。信してあります。取り上げていただきたいものや、お気軽にお問い合わせ・ご用命は株式会社県央研究所へ

絶賛取り扱い中
嘔吐物処理に必要なものをセットした
キヤップがコップになる。しっかりと殺菌・消毒
おも取れる携帯うがい薬
お問合せ・ご用命は

好評です。
観て・聞いて・体験する講演会
ノロ劇場「野呂家にノロ大王がやつてきた」

一般社団法人県央研究所
電話 FAX 0256(46)831101
Eメール info@kenoh-labor.jp